

◆理事会(五十音順)

磯村 尚徳	外交評論家
オスタン・ガエル(理事長)	PMC株式会社代表取締役
大浦 紀彦	形成外科医
木内 昭胤	元駐仏日本大使
ダヴィッド・バトリック	麻酔科医
寺島 左和子	形成外科医
原田 昌子	看護師
フサディエ・フランソワ	形成外科医
ブルデ・アルノ	麻酔科医
山田 信幸	形成外科医
與座 聡	形成外科医

◆事務局(五十音順)

上原 優子	総務・経理マネージャー
エフテル・ブリュン	事務局長
畔柳 奈緒	プロジェクトマネージャー
関 麻衣	ファンドレイジングマネージャー/個人支援者担当
中村 あずさ	日本国内プロジェクト担当
畑中 志保	ファンドレイジングマネージャー/企業パートナー担当
波塚 奈穂	東日本大震災被災地支援プロジェクト担当

◆パートナー(五十音順・敬称略)

愛知ホールルームダンス協会 / 株式会社アサツウ ディ・ケイ / アサヒリテック株式会社
 株式会社アセット婦人画報社 / アメリカン・エクスプレス・インターナショナル・インコーポレイテッド
 株式会社アルフレックス ジャパン / アンスティテュ エステダム ジャパン株式会社
 アン・フォンテーヌ・ジャパン株式会社 / いちよし証券株式会社 / 財団法人 茨城県国際交流協会
 株式会社HRインスティテュート / エキスパートグループホールディングス株式会社
 エノテカ株式会社 / FBM実行委員会 / LVMH モエ ヘネシー・ルイ ヴィトン・ジャパン株式会社
 エールフランス航空 / キュービー株式会社 / クラランス株式会社 / グランド ハイアット東京
 株式会社グリーティングライフ / クリストフル ジャパン株式会社 / グリーン ダイヤモンド
 グループ・ロシニョール株式会社 / 株式会社コスメティックフルーメ / ジェムショッピングTV
 ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 / 株式会社スーパープランニング
 セルバンテス文化センター / 総合警備保障株式会社 / 第一三共株式会社 / Dhillon Marty
 株式会社トゥール・モンド / 日本医療福祉生活協同組合連合会 / 日本橋形成外科
 日本ビール株式会社 / 財団法人 庭野平和財団 / 有限会社原工房 / 株式会社フェリシモ
 独立行政法人 福祉医療機構 / Project OROCHI / ホテル・ナポレオン
 ボストン コンサルティング グループ / ホワイト&ケース外国法務弁護士事務所
 株式会社三井住友銀行 / モーフッサン ジャパン株式会社 / ユーロコプタージャパン株式会社

世界の医療団 (認定NPO法人)

特定非営利活動法人メドゥサン・デュ・モンド ジャポン
 Médecins du Monde Japon

〒106-0044 東京都港区東麻布1-23-5 PMCビル4F
 PMC Building 4F, 1-23-5 Higashi-Azabu, Minato-ku, Tokyo
 106-0044, Japan
 Tel: +81-(0)3-3585-6436 Fax: +81-(0)3-3560-8073
 E-mail: info@mdm.or.jp

www.mdm.or.jp



世界の医療団

2011年4月発行

2010年度 活動報告書



© SOPHIE BRANDSTROM



© Nelly Staderin

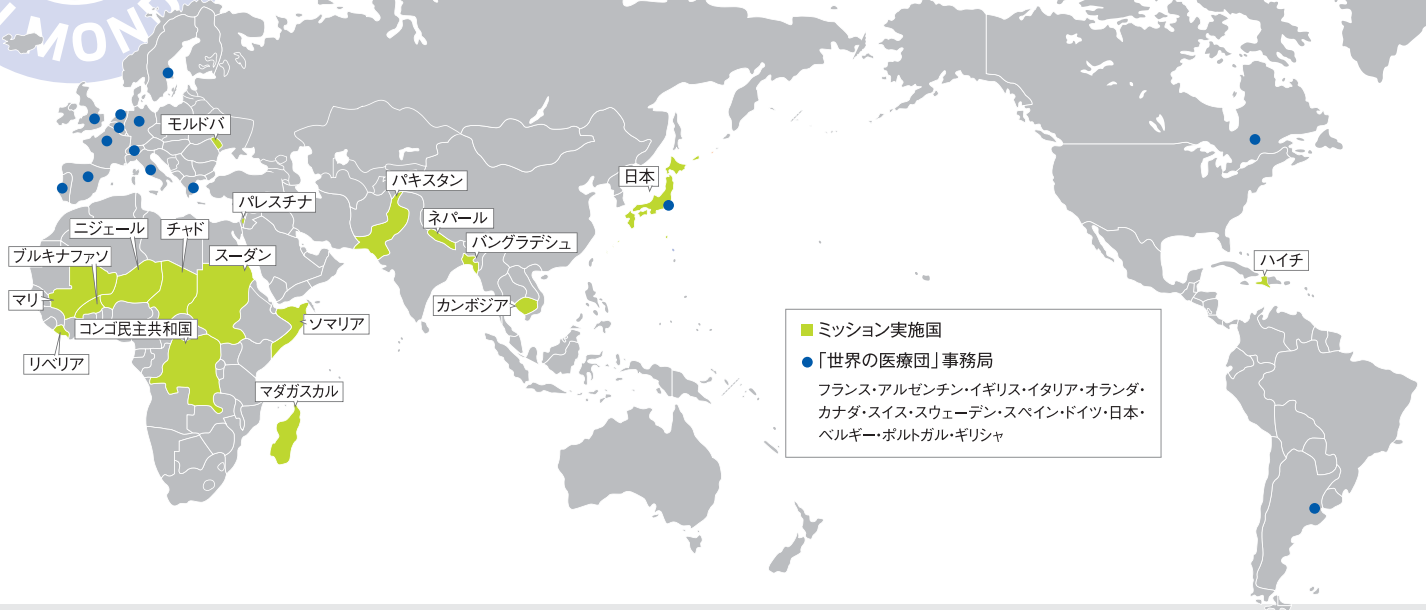


© Isabelle Eshraghi

私たちはあらゆる病と闘います。不公正という名の病とも。
 Nous luttons contre toutes les maladies. Même l'injustice.

世界の医療団の使命は「治療」と「証言」です。

世界の医療団 日本の活動マップ



支援者の皆さまへ

2010年、世界の医療団日本は設立から丸15年を迎えました。2010年4月、精神及び知的機能障がいを持つホームレス状態の人々を対象に、初の日本国内プロジェクトとなる「東京プロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトで、世界の医療団は社会医療ニーズに応じた活動の担い手として高く評価され、様々なメディアからも反響がありました。

国外では、22万人にもなる犠牲者を出した大地震がハイチを襲い、大洪水がパキстанを襲いました。度重なる災害に対し、私たちは総力を結集し、緊急医療支援活動に奔走しました。また、カンボジアとバングラデシュの2カ国でそれぞれ2回のスマイル作戦を実施し、マダガスカルのスマイル作戦にも日本人医療ボランティア2名を派遣しました。スマイル作戦では、手術を受けた約200人の子どもたちやその家族に笑顔を咲かせることができました。

そして、2011年3月11日、未曾有の大地震が東北地方を襲いました。東日本大震災で被災された方々に、ここに心よりお見舞い申し上げます。私たちは「東京プロジェクト」で培った国内支援の人材と組織力を糧に、また、ハイチ大地震の緊急医療支援活動で培った経験とノウハウを活かし、被災された方々を対象に「こころのケア」を中心とした緊急医療支援活動を展開しています。災害の規模を受け、長期的な支援の必要性を認識しており、今後、長いスパンで被災された方々とともに復興への道を進んでいくことを決意しています。

平素より寄せていただいている信頼と、頂戴しておりますご支援に、ここに今一度深く感謝申し上げます。日本を襲った未曾有の悲劇に立ち向かうべく、またこの地球上で医療の恩恵から疎外された1人でも多くの人々へ支援を届けるべく、より一層邁進する所存です。

世界の医療団 日本
理事長 ガエル・オスタン

◆ 2010年ボランティア派遣実績

2010年は、医師6名(清水雄介、寺島左和子、宮尾陽一、森岡大地、山田信幸、與座聡)、看護師5名(石原恵、上野早紀、大坪紀子、小島茜、原田昌子)、非医療コーディネーター1名(原田麻穂)が、海外医療支援活動に参加しました。

【医療ボランティアの声】 看護師 石原 恵



2010年はカンボジアとバングラデシュで実施されたスマイル作戦に延べ3回看護師として参加しました。スマイル作戦では、先天的あるいは後天的に奇形を負ってしまったにも関わらず手術の機会に恵まれなかった人々へ形成外科手術を施します。11月に行われたバングラデシュの首都ダッカでのミッションにおいては199名の患者が診察に訪れ、5日間で55件の手術をすることが出来ました。限られた時間の中で出来るだけ多くの手術ができるようチーム一丸となって早朝から深夜まで活動しますが、待機する患者は後を絶つことなく増え続けています。世界の医療団に手術をして欲しいという期待を胸に何日もかけてダッカまで来る患者も多く、そのニーズに応えるべく私たちは継続して現地へ赴きます。

カンボジアにおいては2007年より計7回のスマイル作戦が実施され、今なお現地医師と共に術後経過のフォローが続けられています。私は手術の遂行と共に現地看護師に手術室の環境整備等の助言をすることで教育に携わってきました。彼らから若い看護師や学生へ繋げることができ、改善が期待されます。

また、術後数ヶ月経っても私たちに会いにやってくる患者は活動の励みです。マスクやショールで顔を隠すことがなくなった、学校に行っている、結婚した…彼らのドラマを感じます。患者の笑顔を取り戻すことができたのは、現地に赴くボランティアだけでなく国内外から支援してくださる皆様一人ひとりの力があるからこそなのです!

イエメン

緊急支援 (紛争被害に対する緊急支援)



© Jean Baptiste Lopez

人間開発指数 (2009)
(182か国中) 140 位
5歳未満の乳幼児死亡率
(出生1,000人中) 69人
平均寿命 63歳
医師の数
(国民1万人あたり) 3人

南北に分かれていたイエメンが1990年に統合され現在のイエメン共和国が成立しました。比較的若いこの国の治安は不安定で、国土の一部では今なお反政府勢力と政府の対立を起因とする激しい戦闘が間断的に繰り返されています。泥沼化した戦闘により、電気、水道、通信などのライフラインが分断され、人々は最低限の市民生活の維持すら難しいばかりか、命の危険にも晒されています。現在までに国内避難民は16万人にも及んでいます。世界の医療団はイエメンに緊急医療支援チームを派遣し、これまでに2000人以上の負傷者の治療を行いました。また不安定な情勢下では医療従事者以外による応急処置も必要だと判断し、人材育成プロジェクトも展開しています。

ハイチ

緊急支援 (地震被害に対する緊急支援)



人間開発指数 (2009)
(182か国中) 149 位
5歳未満の乳幼児死亡率
(出生1,000人中) 72人
平均寿命 61歳
医師の数
(国民1万人あたり) データなし

2010年1月、ハイチは大地震に襲われました。M7.0の地震による死者は22万人以上に及び、約80%が極度の貧困状況にあるといわれるハイチ国民の生活はこれまで以上に過酷を極めています。地震が奪っていったものはあまりに大きく、国民は家族、家、仕事のみならず将来への僅かな希望すら失いかけています。世界の医療団は地震発生以前からハイチで母子保健などの活動を展開していたため、早急に緊急支援を開始することができました。しかし被災からの復興を待たずして10月には大規模洪水が発生し、劣悪な衛生状態の中、コレラ感染が深刻化しており、未だ支援の手を緩めることはできません。

パキスタン

緊急支援 (洪水被害に対する緊急支援)



© REUTERS/ Faisal Mahmood

2010年夏、記録的な豪雨に見舞われたパキスタンは、大洪水によって約2000万人の被災者をだしました。道路は分断され、孤立する被災地では物流が滞り医薬品も大幅に不足しました。清潔な飲料水すら不足し、感染症の爆発的な蔓延が危惧されました。こうした一刻も早い支援が必要とされる状況下で、世界の医療団は迅速に緊急支援を開始しました。被災以前から現地でも多岐に亘る活動を行い、大勢の現地スタッフがいたためです。モバイルクリニックを通じ、下痢性疾患などへの緊急手当てはもちろん、情報が不足している被災者に不衛生な環境下で身を守る方法を伝達し、恐怖に怯える人々を感染症の蔓延から守りました。

人間開発指数 (2009)
(182か国中) 141 位
5歳未満の乳幼児死亡率
(出生1,000人中) 89人
平均寿命 67歳
医師の数
(国民1万人あたり) 8人

コンゴ民主共和国

長期支援 (ストリート・チルドレンケア、プライマリヘルスケア、HIV対策)



© Bruno Fert

アフリカ史上最も残虐とも評される紛争によって540万人以上の犠牲者をだしたコンゴ民主共和国では、紛争終焉後も未だ混迷を極め、町にはHIV、マラリア、コレラ等の感染症の危険や、強姦、強盗、麻薬などのあらゆる犯罪が蔓延しています。路上で生きる14,000人ものストリートチルドレンにとって、日々を生き抜くためには、あまりに残酷な選択肢しかないのです。世界の医療団はコンゴを優先的な支援対象国と位置付け、ストリートチルドレンケアセンターの運営、HIV対策、性的暴力の犠牲者の女性の支援、プライマリヘルスケアといった多岐に亘る活動を展開しています。更に日本でこのコンゴの現実をより広く知ってもらうため、2010年に特設WEBサイト『コンゴフォン』を開設しました。

WEBサイト「コンゴフォン」: <http://www.congophon.com/>

人間開発指数 (2009)
(182か国中) 176位
5歳未満の乳幼児死亡率
(出生1,000人中) 199人
平均寿命 48歳
医師の数
(国民1万人あたり) 1人

*5歳未満の乳幼児死亡率~*HDI2008/平均寿命~*HDI 2009/医師の数~*HDI 2000-2009 (*HDI=人間開発指数)

Chad/Mali

チャド、マリ

長期支援 (産科フィスチュラ患者に対する支援)



人間開発指数 (2009)

(182か国中)
175位/178位

5歳未満の乳幼児死亡率

(出生1,000人中)
209人/194人

平均寿命 49歳/48歳

医師の数

(国民1万人あたり)
0.5人未満/1人

※チャド/マリの順

アフリカ大陸のそれぞれ西と中央に位置するマリとチャド。ここには産科フィスチュラを患い、耐え難い生活を送る女性たちがいます。これは難産の際に適切な医療ケアが受けられないことなどが原因で膣にあなが形成される疾病です。胎児は死産が多く、産後は産婦の膣から絶えず尿や便、ガスなどの分泌物が漏れ出します。この症状により産婦は周囲からの差別と偏見に晒され、肉体のみならず精神も蝕まれてしまいます。世界の医療団は周囲から孤立し、医療の恩恵からも疎外された彼女たちへの支援として、外科手術を施すほか24時間体制の産科医療の提供、精神ケア、各種訓練など包括的な支援活動を実施しています。現在までに手術を受けた約1300人の女性のうち、9割近くが完治しています。

Nepal

ネパール

長期支援 (妊婦と子どもの命を守る母子保健)



人間開発指数 (2009)

(182か国中) 144位

5歳未満の乳幼児死亡率

(出生1,000人中) 51人

平均寿命 67歳

医師の数

(国民1万人あたり) 5.1人

2008年に、ようやく11年もの長い内戦から脱したネパールの荒廃はすさまじく、インフラの破壊、政治の混迷、カースト制度による経済格差などによって国民は先の見えない苦難の道を今も歩き続けています。長い内戦は多くの医療従事者も国から奪っていきました。特に母子医療は深刻な状況で、妊婦は最寄りの診療所に行くためにも高々とそそり立つ山の間を這う危険な道を身重の不自由な体で何時間も歩き続けなければならないほどです。世界の医療団は医療従事者の育成や妊娠・出産に関わる勉強会を開催するほか搬送システムの整備を行い、山間部の険しい道を縫って命の危険に晒されている妊婦と子どもに唯一の命綱を渡しています。

Niger/Burkina Faso/Mali

ニジェール、ブルキナファソ、マリ

長期支援 (国境を越えた「サヘルプロジェクト」)



© Isabelle Eshraghi

人間開発指数 (2009)

(182か国中)
182位/177位/178位

5歳未満の乳幼児死亡率

(出生1,000人中)
167人/169人/194人

平均寿命 51歳/53歳/48歳

医師の数

(国民1万人あたり)
0.5人未満/1人/1人

※ニジェール/ブルキナファソ/マリの順

サヘルはアフリカのサハラ砂漠の南に東西に広がる帯状の地域です。世界でも最も厳しい気候に属するこの地域には世界でも最も開発が遅れた国々が集中しています。サヘルに属する国々は異常気象や世界的な食料価格高騰の影響を色濃く受け、飢餓の慢性化が危惧されており、痩せ細り全身の骨が浮き立った子どもを見かけることも少なくはありません。そこで世界の医療団は、プライマリヘルスケアを土台とした、ニジェール、マリ、ブルキナファソの三ヶ国に亘る国境を越えた「サヘルプロジェクト」を展開しています。貧困により奪われた医療へのアクセスを改善し、サヘルで暮らす70万人の人々の心と体の健康を支えています。

Liberia

リベリア

長期支援 (妊婦と子どもの命を守る母子保健)



© REUTERS/ Faisal Mahmood

人間開発指数 (2009)

(182か国中) 169位

5歳未満の乳幼児死亡率

(出生1,000人中) 145人

平均寿命 58歳

医師の数

(国民1万人あたり) 0.5人未満

アフリカ西部に位置するリベリア。7年前、14年に亘った内戦に終止符が打たれたにも関わらず、国民は現在も悲痛な叫びを挙げています。内戦が奪ったものは20万人の命に止まりません。国内の機能は麻痺し、医療インフラは未だ不安定な状況です。リベリアの女性の12人に1人が妊娠・出産が原因で命を落とし、85%の妊婦は出産に関する知識を殆ど持たないまま自宅での危険な出産を余儀なくされています。2010年7月、世界の医療団は特に危機的な状況に置かれているポン郡バルンガに産科専門病院を開設し、全ての患者への無料診療を開始しました。リベリアの女性は安全な出産の実現に向け、ようやくスタート地点に立つことができたのです。

※5歳未満の乳幼児死亡率~*HDI2008/平均寿命~*HDI 2009/医師の数~*HDI 2000-2009 (*HDI=人間開発指数)

カンボジア

スマイル作戦 (子どもたちの笑顔を取り戻す修復形成外科手術)



回数: 2回
期間: 6月5日~6月17日、10月16日~10月24日
場所: バタンバン 手術件数: 73件
派遣ボランティア: 計10名、うち日本人8名(延べ人数)

2007年に再開されたバタンバンでのスマイル作戦は2010年にも2回開催されました。手術に加え、スマイル作戦の2つめの目的である現地スタッフの育成、つまり技術や知識の移転にこれまで以上に注力しました。手術の技法、適切な術後のケア、麻酔科の手技や薬の知識、手術を安全かつ効率的に行うための衛生や看護の知識など、それぞれの専門家が現地スタッフに可能な限り伝達しました。患者やその家族の笑顔とともに、自信に溢れた現地スタッフの笑顔もまた、スマイル作戦の目指すものの一つです。

人間開発指数(2009)
(182か国中) 137位
5歳未満の乳幼児死亡率
(出生1,000人中) 90人
平均寿命 61歳
医師の数
(国民1万人あたり) 2人

マダガスカル

スマイル作戦 (子どもたちの笑顔を取り戻す修復形成外科手術)



回数: 1回
期間: 7月30日~8月7日
場所: アンタナリボ 手術件数: 28件
派遣ボランティア: 5名、うち日本人2名

70名以上を診察すると、スケジュールは瞬間に埋まり、手術が始まりました。老朽化で窓が密閉できない手術室には冬のマダガスカルの冷気が吹き込み、一方で強烈な午後の日差しがカーテンもない窓から術野を直撃します。決して恵まれているとは言えない環境の中、世界の医療団のボランティアは現地スタッフと協力し、朝から晩まで手術を続けました。帰国前の術後診察では、全ての患者の経過が良好で、多くの笑顔が溢れました。ボランティアたちの疲労が吹き飛ぶ瞬間です。

人間開発指数(2009)
(182か国中) 145位
5歳未満の乳幼児死亡率
(出生1,000人中) 106人
平均寿命 60歳
医師の数
(国民1万人あたり) 2人

バングラデシュ

スマイル作戦 (子どもたちの笑顔を取り戻す修復形成外科手術)



回数: 2回
期間: 2月25~3月5日、11月20日~12月6日
場所: ダッカ 手術件数: 98件
派遣ボランティア: 計21名、うち日本人13名(延べ人数)

先天性の奇形である口唇裂のためずっと引込み思案だったムラッド(6)は、2010年1回目のミッションで手術を受けることができました。術後の経過は良好で、傷跡はほとんど目立たなくなりました。今では表を元気に友だちと走り回っています。就学の年齢を迎え、学校に通わせるか迷っていた両親も今のムラッドなら大丈夫と、入学を決めました。スマイル作戦が変えるのは姿形ではありません。形成外科の立ち遅れが著しいバングラデシュでは、スマイル作戦の継続した開催と若手の育成が急務です。

人間開発指数(2009)
(182か国中) 146位
5歳未満の乳幼児死亡率
(出生1,000人中) 54人
平均寿命 66歳
医師の数
(国民1万人あたり) 3人

日本

東京プロジェクト (ホームレス状態の人々の精神と生活向上プロジェクト)



2010年4月、国内初の『東京プロジェクト』が誕生しました。これは「医療・福祉の支援が必要なホームレス状態の人々の精神と生活向上プロジェクト」です。昨今の不況の影響でホームレス状態にある人々は増加傾向にあり、その数はネットカフェ難民なども含めると10万人以上とも言われています。元々障がいをもつ方も多く、約60%に何らかの精神症状が見られ、適切な判断ができず、日常生活にも支障をきたす方も多くいます。彼らの状態を把握し、適切な支援に繋げるため、アウトリーチ(訪問活動)を行い、医療、福祉、生活相談を行うなど、精神や知的を中心とした支援活動を展開しています。

人間開発指数(2009)
(182か国中) 10位
5歳未満の乳幼児死亡率
(出生1,000人中) 4人
平均寿命 83歳
医師の数
(国民1万人あたり) 21人

※5歳未満の乳幼児死亡率~HDI2008/平均寿命~HDI 2009/医師の数~HDI 2000-2009
(*HDI=人間開発指数)

証言活動

イベント(抜粋)

■ブース出展

アフリカンフェスタ、アースデイ愛知、愛フェス、グローバルフェスタ、フレンチブルーミーティング、アースデイ東京、アースガーデン秋

■講演・シンポジウム・セミナー

愛知県教育大学付属岡崎中学校、青山学院大学、慶応義塾大学、国際基督教大学高等学校、滋賀医科大学、湘南学園高校、住吉高校、玉川大学、中央大学、シンポジウム「MDGsと報道を考える」、CSRセミナー「企業とNPOの理想的な融合を考える」 他

■チャリティイベント

支援者の集い、Latin Jazz Charity、African JAG 写真展



メディア(抜粋)

<テレビ・ラジオ>

- J-WAVE 【2010/4/2 「KONICA MINOLTA COME TOGETHER」団体活動紹介】
- SHIBUYA-FM 【2010/4/20 「Radio JAG」アフリカでの支援活動】
- FMヨコハマ 【2010/5/14, 21 「Yokohama Social Café」団体活動紹介】
- J-WAVE 【2010/7/5 「Tokyo Morning Radio」コンゴフォン紹介】
- NHK教育テレビ 【2010/9/7 「福祉ネットワーク」東京プロジェクト紹介】

<新聞>

- 神奈川新聞 【2010/5/24 中村あずさインタビュー】
- 朝日新聞 【2010/6/19 東京プロジェクト紹介】
- 日本経済新聞 【2010/7/6 東京プロジェクト紹介】

<雑誌>

- ヴァンサンカン 【2010年6月号/7月号/2011年1月号(11/27発売)
アメリカン・エクスプレスチャリティピックス/ラデュレポーチ/コンゴフォン】
- 宣伝会議 【2010/12/1 コンゴフォン紹介】
- フィガロジャポン 【2010/5/20 ダヴィット副会長インタビュー】

キャンペーン

■「コンゴフォン」(医療支援活動キャンペーン)2010年6月～

紛争終結後の現在も貧困や医療アクセス不足に悩み、悲惨な状況に置かれているコンゴ民主共和国。この国で暮らす人々の現状とストリートチルドレンケアセンターの運営からHIV対策まで多岐に亘る世界の医療団の活動を紹介する特設WEBサイトを開設。

<http://www.congophone.com/>

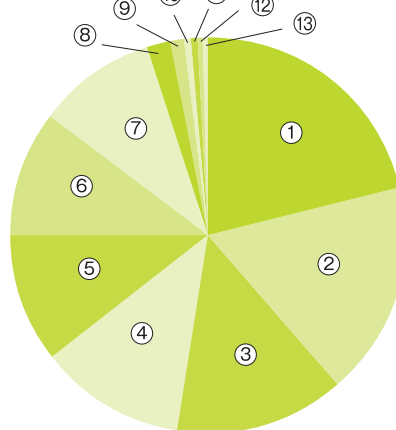


2010年度決算

世界の医療団日本は、1名の監事による会計および業務の内部監査と、外部の独立した公認会計士による会計監査を毎年度受けています。

収入(単位:日本円)	137,078,043	支出(単位:日本円)	128,306,946
寄付	84,128,301	プロジェクト(医療支援+証言活動)	82,985,928
民間助成金	51,317,237	募金費	32,278,766
収益事業	1,154,400	管理費	8,764,767
謝礼 ほか	323,105	広報費	4,277,485
会費	155,000		

◎プロジェクト費内訳



①コンゴ民主共和国基礎医療	21.4%	⑧パキスタン緊急支援	1.8%
②ハイチ緊急支援	17.5%	⑨リベリア基礎医療	1.3%
③スマイル作戦	13.8%	⑩海外派遣ボランティアのリクルート活動	0.5%
④証言活動	11.9%	⑪フィスチュラ(マリ・チャド)	0.5%
⑤東京プロジェクト	10.5%	⑫スーダン基礎医療	0.4%
⑥ネパール母子保健	10.3%	⑬イエメン緊急支援	0.3%
⑦サヘル基礎医療	9.9%	合計	100.0%

世界の医療団は「認定NPO法人」として国税庁より認定されています。弊団体へのご寄付は税制上の優遇措置を受けることができます。

政策提言(アドボカシー)

「東京プロジェクト」の開始と同時に、地方、中央ともに行政機関から強い関心が寄せられ、当時の厚生労働大臣妻氏をはじめとした厚生労働省の担当者などとの会合の場で、施策の必要性を訴えました。また市民社会ネットワーク「動く→動かす」が主催する外務省などとのミーティングを通して、医療への普遍的なアクセスの実現、及び医療分野の人材不足解消の重要性を絶えず主張しました。さらに、TICAD(アフリカ開発会議)のアドボカシーグループの一員として、アフリカの市民社会が医療分野において切望しているものを、アフリカ諸国の政府代表、並びに外務省に訴えました。